

農作物の浸水・冠水害に関する技術対策（第1報）

7月15日から17日にかけての降雨により、石巻管内では水田や畑で農作物の、浸水・冠水被害が確認されています。今後の栽培管理について、技術対策を整理しましたのでご活用ください。

1 水稲

- ・ 幼穂形成期～減数分裂期の浸水・冠水は、穂数の減少、穂揃い不良、籾数の減少、不稔粒の増加を生じます。特に、減数分裂期の冠水は減収につながるため、**速やかに排水**してください。
- ・ 排水後は、新鮮な用水で茎葉に付着した泥土を洗い落とし、根部への酸素供給を図り、その後は通常の水管理を行います。
- ・ 追肥は冠水直後を避け、数日経ってから行ってください。
- ・ 黄化萎縮病、白葉枯病、いもち病の発生リスクが高まります。適宜薬剤防除に努めてください。

表1 水稲の生育時期別の冠水日数と減収率

生育段階	冠水日数(日)及び減収率(%)				症状
	1	3	5	7	
幼穂形成期	—	30	60	70	幼穂枯死が多い
出穂期前13日	25	80	90	100	二段穂を生じる。それが稔実すれば補償がみられる
出穂期前10日	75	100	100	100	

出典：農林省統計調査部

2 大豆

- ・ 大豆は水稲よりも湿害に弱いので、長時間の多湿では土壤中の酸素不足による生育遅延や根腐れを引き起こします。**できるだけ速やかに排水**に努めてください。
- ・ 浸水や冠水で**排水溝や明きよ等**が崩壊している場合があるため、排水が速やかにおこなわれるよう**点検整備**を速やかに実施し、早期の排水に努めてください。
- ・ 排水後はできるだけ早めに中耕培土を行い、新根（不定根）の発生を促してください。
- ・ 湿害によって根粒菌からの窒素供給が少なくなるので、硫安などの即効性肥料で生育の回復を図りましょう。窒素成分で3kg/10a（硫安15kg程度）が

目安です。ただしミヤギシロメではまん化・倒伏の危険があるので生育状況に注意して施用してください。

表2 大豆の冠水期間と被害割合

被害時生育ステージ：生育初期～開花期

冠水期間		1日未満	1日以上2日未満	2日以上3日未満	3日以上
被害割合 (%)	冠水	5	15	50	100
	浸水	3	15	40	65

出典：農業災害ハンドブック（平成2年）

3 園芸共通

- ・浸水した場合は、速やかに排水を図りましょう。冠水した場合は、茎葉に付着した泥土が乾かないうちに動力噴霧機等を利用して、清水で洗い流し、予防のため速やかに登録のある殺菌剤を散布してください。
- ・回復が見込まれない場合は、速やかに播き直しや他品目等に切り替えましょう。

4 露地野菜

- ・ねぎ（長ねぎ）については、降雨の影響で適期追肥ができなかったほ場では、ほ場条件を確認し、中耕、培土を行ってください。
- ・定植準備中のキャベツ苗については、セルトレイ（128穴）で育苗した苗は、本葉2.5枚程度から定植可能ですが、浸水・冠水の影響でほ場の準備ができず定植が遅れそうな場合は、苗に一切追肥は行わず、水だけで管理し、定植環境が整ってから定植します。ただし、品種ごとに栽培適期があるので普及センター等に相談ください。

5 施設野菜

- ・こねぎは、浸水被害後に、高温多湿や草勢の低下により疫病等の病害に感染しやすくなります。登録のある殺菌剤を散布し、感染予防に努めてください。

6 露地花き

- ・湿害を防ぐため、排水対策を講じるとともに、倒伏を防ぐため支柱やフラワーネットをしっかりと張ります。降雨が続いた後には、病害虫防除を徹底し、品質の低下を防ぎましょう。

7 飼料作物

- ・浸水・冠水した場合は早期の排水に努めましょう。